

■金春(こんばる)屋敷跡

所在地：中央区銀座 8-6～8 地域

江戸時代、幕府直属の能役者として知行・配当米扶持を与えられていた家柄に、金春・観世・宝生・金剛の四家がありました。能楽は室町時代に足利幕府の庇護を受けて発展し、安土桃山時代には熱心な愛好者であった豊臣 秀吉の庇護を受けて大いに興隆しました。

とくに、金春家は秀吉の強力な庇護を受け、能楽の筆頭として召しかかえられました。江戸幕府も秀吉の方針を踏襲して能楽を庇護し、金春・観世・宝生・金剛の四家を幕府の儀式に深く関わる式楽と決めました。

元禄 6 年(1693 年)頃の江戸市中の状況を記した「国花万葉記」によると、金春大夫は山王寺(現在の銀座 8 丁目)・観世大夫は弓町(銀座 2 丁目)・宝生大夫は中橋大鋸町(現在の京橋)・金剛大夫は滝山町(銀座 6 丁目)に屋敷を拝領していたとされています。

金春家は、寛永 4 年(1627 年)に屋敷を拝領したといわれ、寛永 9 年(1632 年)の江戸図「武州豊嶋郡江戸庄図」には「金春 七郎」の名を確認することができ、現在の銀座 8 丁目・6・7・8 番地全体を占めていたように図示されています。後に、金春家は麴町善国寺谷(千代田区麴町 3・4 丁目)に移りましたが、跡地には芸者が集まり花街として発展していき「金春芸者」といわれるようになりました。金春の名は、「金春湯」・「金春通り」などとして、今もこの地に残っています。

2003 年 3 月 中央区教育委員会

「銀座金春通り煉瓦遺構の碑」

かつて銀座には世界でも珍しい規模の煉瓦街がありました。それは、英人ウォートルスの設計で明治 5 年(1872 年)から明治 10 年にかけて建設、当時の国家予算の 4%弱を費やし延べ 10,460m という壮大なものでした。

1988 年に金春通り会地域内からその煉瓦街の遺構の一部が発見されました。土地所有者の故松川 浩子氏のご好意で大部分は江戸東京博物館に展示され、その一部を当会で保存して来ましたが、中央区の協力で新煉瓦歩道を造るにあたり、「金春屋敷跡」説明板付近に「銀座金春通り煉瓦遺構の碑」(手でさわれる)が史跡として 1993 年 9 月に建立されました。

■扇で流派が分かるって本当？

能楽は、室町時代より足利幕府の奨励を受けて発展し、現在まで受け継がれてきた日本を代表する舞台芸術で、日本の重要無形文化財、ユネスコ重要文化遺産に認定されています。

能楽師には主役を務めるシテ方を中心に、ワキ方、囃子方(はやしかた)、狂言方があります。現在シテ方は金春流、観世(かんぜ)流、金剛(こんごう)流、宝生(ほうしょう)流、喜多(きた)流という五流派があり、金春流が最古の流派とされています。

この 5 流派は仕舞に使用する扇の文様や作りがそれぞれ決まっています。金春流は、5つの丸紋が描かれた「五星」で扇骨はまっすぐな自然の形の扇を使用します。各流派それぞれ特徴の異なる扇を使用しており、扇によって流派を見分けることが可能です。

■金春流ってなに？

金春流は能の謡や舞を担当するシテ方で、6世紀後半に活躍した秦 河勝(はたのかわかつ)を遠祖とし、現宗家 金春 安明が 80 世です。

金春という名は、能楽が大成された室町時代に鬼能に長じた毘沙王権守(びしゃおうごんのかみ)の子供が、金春権守という芸名を使ったことから生まれました。その孫は金春 禅竹(こんばる ぜんちく)で、世阿弥の娘婿にあたり「拾玉得花(しゅうぎょくとくか)」「花鏡(かきょう)」といった秘伝を相伝され、「定家」「芭蕉」等の作品を遺しました。

能楽は戦国武将たちにも好まれ、豊臣 秀吉や徳川 家康も能を保護しました。その後も、明治維新などの幾多の荒波を乗り越えて現在に至っています。